中学生部門　愛知県入選作品

「僕の弟　えいた」

豊橋市立南部中学校　三年

池田　聡汰

僕の弟は、ダウン症候群です。ダウン症が障がいのない人と大きく違うところは、発達していく過程は同じでもその発達がゆっくりであることです。ここでは、ダウン症の弟と僕の話を紹介します。

僕の弟のえいたは風が好きです。正確には、風にひらめいている旗や布を見るのが好きで、それならずっと見ていられるくらいには好きだと思います。だからえいたは、街中で風でひらめいている旗を見かけると吸い込まれるように見入ってしまいます。そんな時に、えいたに再び動いてもらうのは至難の業です。なんとか動いてもらおうとしてもかんしゃくを起こしてその場にしゃがみこんでしまうのです。そしてえいたは喋ることができません。そのため、かんしゃくを起こしても説得することができないのです。えいたがかんしゃくを起こすようになったのは、つい2年程前からです。だから、初めのころは、障がいのない子どものイヤイヤ期のようなもので待っていればいつかは終わるだろと思っていました。ですが、全く終わる様子は見せず、逆にひどくなっているのではと思うくらいになってきました。そのため最近は、これは喋ることができないえいたが、人に自分の気持ちを伝えるための彼なりの方法なのではないかと思っています。そうしたら、今までよりもえいたの心の中が分かるような気がしてきました。ただ、それでもえいたがどう考えているのかしっかりと知り、お互いのためになるように生活するためには、えいたに喋ってもらわなければいけません。ですが、えいたには喋るかも、というような兆候が全くありません。だから、今は簡単なジェスチャーを家族みんなで使って弟が自分の気持ちを表現できるような環境を作ったり、いつものかんしゃくだと軽く流してしまうのではなく、本人と向き合って、できる限り希望を知るように工夫したりしています。これらのことを通して、いつかは、お互いの思うことを不自由なく共有していけるようになりたいです。

えいたとの生活は、分からないことや初めて経験することばかりです。ですが、だからこそ、知らない世界が知れて、えいたに感謝しています。えいたのおかげで人として成長できています。